

会 議 録	
会 議 名	令和 6 年度第 2 回丸亀市社会教育委員の会
開 催 日 時	令和 6 年 12 月 24 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	マルタス ROOM2
出 席 者	出席委員 高橋 勝子・大村 隆史・藤田 裕子・塩田 康廣 中俣 保志・白川 常俊・金澤 泰宏・久米井 直人 欠席委員 宮武 恵美子・倉田 眉貴子 傍聴人 なし 事務局 田中部長・村尾課長・林副課長・白石担当長・田村主任
協 議 案 件	議 事 ≪非公開≫ (1) 令和 7 年度予算（案）について（生涯学習事業関連） 報 告 (1) 令和 7 年丸亀市二十歳の成人式について
配 布 資 料	【資料 1】令和 7 年度生涯学習に関する主要な取組に係る予算概要≪非公開≫ 【資料 2】第 46 回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会の概要 【資料 3】第 46 回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会の報告書
事務局	定刻が参りましたので、令和 6 年度第 2 回丸亀市社会教育委員の会を始めさせていただきます。 本日は年末の大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 会に先立ちまして資料の確認をお願いします。資料につきましては事前にお送りした次第、資料 2、当日配布資料として A3 の資料 1、資料 3、報告資料、社協連会報をお手元に置いておりますのでお持ち帰りください。 また本日、宮武委員につきましては所用のため欠席との連絡がありましたので、ご報告いたします。中俣議員は遅れて来られます。 本日の会議は 10 名の委員のうち、現在 7 名の委員にご出席いただいておりますので、丸亀市社会教育委員の会に関する規則第 6 条第 1 項に基づき、本会が有効に成立しておりますことをお知らせいたします。 本日の会議につきましては次第に沿って進行させていただきますのでよろしくをお願いします。それでは初めに会長よりご挨拶をお願いします。

会長	皆様おはようございます。
事務局	師走の押し迫った本当にお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。この会は今年度最後ですか。
会長	3月が最後になります。
	はい。今年は最後になります。11月の末に中国・四国地区社会教育研究大会が徳島市で開催されたので参加させていただきました。報告についてはちょっと時間を作っていただいているので、そちらの方で少しさせていただきますかと思います。
	挨拶と言ってもなんですけれども、先日の土曜日、「まるがめ子育てフェスタ&まるマルシェ」というイベントをアイレックスの全館を借りて、子育て親子に向けたフェスタを開催いたしました。こちらはうちの団体が主催ではなく、実行委員会制ということで、行政、支援団体が一堂に集まって、子育てを応援する機運を高めようということで毎年開催しています。事務局を「さぬきっずコムシアター」が受けたのですが、今回テーマを「こどもの声を聴こう！！目指せ！こどもまんなか社会」ということで、大人がこのフェスタを企画運営するのですが、子どもたちが自由に参加できる場も作っていかうということで、路上パフォーマンスだったり、ステージの発表だったり、またボランティアだったり、子どもたちの活躍できる場を作ってみました。子どもたちが笑顔で、楽しみながら参加してもらっているのがとても印象的でした。来場していただいた親御さんも大変喜んでいただいて、こうやって、1つのイベントですけれども、ただイベントを盛り上げるだけではなくて、繋がりを作っていくとか、出番を作るとかという仕掛けを作っていくのも社会教育に繋がっていくのかなとつくづく思ったところです。そんな社会教育についての会になります。本日も皆様の活発なご意見いただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。それではただいまから議事に入らせていただきます。
	丸亀市社会教育委員の会に関する規則第4条第1項により、会長に議長をお願いいたします。
会長	はい。それではただいまから議事に入らせていただきます。
	議事が1件、報告が1件ですね。令和7年度予算編成案について事務局より説明をお願いします。なお予算編成につきましては、3月議会の議決後となっていますので、本件に関しては非公開といたします。はい。よろしくお願いいたします。
事務局	【議事1については非公開】

会長	ありがとうございます。そのほかにはないですか。報告の方に移らせていただきます。 報告（1）第46回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会の参加報告についてのご説明をお願いいたします。
事務局	概要について、お話しします。11月28日木曜日に徳島県のあわぎんホールで、白石と会長の方で参加させていただきました。28日は基調講演とパネルディスカッション、次の日は分科会ということで、第1分科会から第4分科会までありまして、私が参加したのが第1分科会、学校と地域の連携協働の分科会です。こちらの助言者としてB委員がいらっしやっております。 第3分科会は会長、家庭教育支援の方にご参加いただいております。 本研究大会は、「誰もが輝き、活躍できる人づくり、つながりづくり」を研究主題として、一人一人の可能性を最大限に引き出す、ウェルビーイング社会の実現のため、社会教育がどのような役割を果たしていけばよいかについて考える機会となっております。 報告については、資料3の方をご覧ください、それぞれに報告をお願いします。
会長	報告させていただきます。 アトラクションのほうが高校生の阿波踊りを見させていただきました。昨年も高校生の神楽を見させていただいて、地域の伝統芸能が若い子たちに繋がっていつているなっていうのを感じさせていただきました。学校の中でそれを推し進めていつているっていうのも、素晴らしいとは思いますが、香川ではどうなっているんだろうっていうのが、全然見えてこないで、ご存じの方は教えていただけたらと思います。 基調公演の方は、一時期メディアでも取り沙汰されていた神山学園ですね。専門学校的な高専ですね。いろんな人が関わってきて、それが地域を活性化させているし、プロフェッショナルな子どもたちも、元々いろんなものを持っている子どもたちが集まっている状況で、実は知人の方も受験したんですけども残念ながらということで、受験の内容とか聞いたらもう本当に次元の違う子どもたちが集まって、何か特化したことをされるっていうのは素晴らしいなと思ったんですけど、地元の子どもたちはそこに行けるのかって言ったと、どうなんだろうかと。地域を活性化していくっていうことには繋がっているかなと思ったんですけど、地域の子どもたちが取り残されないような、そんな視点も必要なんじゃないかなと。 パネルディスカッションの方は、コーディネーターが香川の附属小学校

	にいらっしゃった阪根先生で、パネリストの方々は本当にその地域に住む私と同じような年代の人が地域の中で地域の人が好きなことで活躍できる場を作っているっていうところに、そこを引き出していく力が素晴らしいなと感じました。お花が好きな人がまちをお花ガーデンにしていくようなきっかけを作ったりとか、子どもたちが公園を作るのに主体的に一緒に関わっていくことなどをされていました。 合同会社 RDND（あるでないで）は、「ないものを作り出していく」っていう視点で、若い人が戻ってきて、その場を作っていくっていう、過疎地の中で若い力がどんどん活性化されていると思いました。「価値がないと思っていたものに価値を見いだす」ということも言っていました。 中間支援的なまちづくりを行う「協働プラザ」で働いている方のご自身の働き方とかを話されておりました。若い力もあり、その地元ずっと住んでいる方の力もあり、本当にキパーソンっていう人物がいて、どんどん活性化してはいつているんだけど、この人の次に続く人達っていう、その繋がり、人材の育成っていう視点も必要になっているんだろうと感じました。 分科会の方は、私が子育て支援というNPOをやっておりますので、家庭教育のところ伺わせていただきました。 親子の関係性を深める親学プログラム実践事例と、過疎地における子どもの居場所づくりの実践事例の内容を聞きました。各地でこういう活動というのは、地道にされているものがそれぞれあるかと思うんですけど、先日、日本虐待防止学会に参加させていただいたんですけど、虐待があつてからの支援や施設があつたり、教育があつたりと事後の支援には結構予算がついていろんなことがされていつているんですけど、この親学プログラム、多分香川でもありますよね。親学と言っているのか名前は違うかと思うんですけど、親同士がワークショップをするプログラムですけど、そういったことが事前の予防対策になると思っておりまして、こういうのはどんどん広まっていったら、親としての力もつけていくんじゃないかなと感じています。 徳島という、県自体が過疎地なところに、いろんな風が吹いて一生懸命に町づくりをされている事例がすごい多かったんですけど、やっぱり施策がなかなか田舎に行き届いていないところに、こんな施策があるけどここではできてない、これもあるけどできてないっていうところに気づいて、それを自らが進めていつている方の子どもの居場所づくりの実践例でした。もっと行政や企業とかが民間でやられている人たちと繋がっていつて、国全体でそういう過疎地であっても都会であっても同じよう
--	--

事務局	にサービスが届くようになったらいいんじゃないかなと思いました。 私自身この「教育」という言葉があまり好きでないので、これは社会教育、これは家庭教育、これが学校教育っていうふうな区別なく、本当に学べる場っていうようなそういう意識で取り組んでいけたらいいと思いました。 続きまして報告します。アトラクションについては阿波踊りの皆さんの舞台を見させていただきました。長いことやっているんだなと思っていましたが、創部は 9 年目ってということで、高校生も文化承継など見直されて取り組まれているんだなと感じました。基調講演につきましては、過疎地をどうにかしないといけないっていう、大南さんが自ら芸術家を招聘したりとか、まちづくりのために尽力されていたりしたんですけれども、村には職がない、雇用がないので、それを逆手に取って職を持った人に来てもらうっていう逆指名っていう言葉が使われていましたけれども、空き家を改修して、パン屋さんに来てもらいたいから来てもらう、そういう視点の違った取り組みをされていたのが印象的でした。 パネルディスカッションについては、先ほどの会長がおっしゃっていた RDND の方ですけれども、こちらの方は上勝町出身で、ゼロ・ウェイストという上勝町がごみの削減の取り組みをされている先進的な町です。そちらの取り組みを中学生の時に海外で発表し、その取り組みが評価されて、自分の町でも世界に繋がるものを感じたというところから、起業をするきっかけになったそうです。 村の方は過疎地ですけれど、滞在に来てもらって上勝町のプロジェクトとかを体験してもらって、自分自身を振り返ってもらう期間、滞在してもらう期間っていうものを価値のあるものとして築いて、プロジェクトをされているそうです。 小さい頃の経験も必要だったと思うんですけど、高校生とか中学生の経験することって、将来にすごく繋がるんだなっていうのを改めて感じました。 分科会の方は、地域学校協働の活動についてですが、丸亀ではコミュニティの方が主にボランティアでされているところが多いんですけれども、こちらの岡山県西栗倉村は、一般社団法人 Nest さんに委託という形で取り組まれています。こちら村なので、幼稚園から中学校まで同じ同級生っていう固定化された関係のまま、高校生になると村外で生活していくっていう状態で、なかなか新しい環境に馴染めないなどの課題があったそうです。そちらの取り組みとして子どもの自立心であるとか、教育のプロの方が職業体験であるとか、将来に向けての支援をされてい
-----	--

会長 委員	るようです。また今年 3 月には拠点施設が完成したので、他の地域の住民の方にも集まってこられる場を提供することで、さらに取り組みが広がっていくんだろうなと感じました。 次に阿波人形浄瑠璃のテーマでは、徳島県は人形浄瑠璃が盛んな地域っていうことを、初めて知りました。その取り組みを、長年続けている方のお話だったんですけども、高校でも指導しているが、小学生の参加者が少ないであるとか、問題点もあるようだったんですけども、阿波踊りのようにそういう繋がり、県下全体の繋がり、今後もまた発展していくような余地を感じました。 総合的に研究大会に参加しての感想ですけども、徳島県は隣の県ですけど、あんまり地域のこととかも知らずに過ごしていました。以前テレビで、移住者の方が村にはよくやってくるけど移住者は来てもまたどっか行ってしまふ、定住しないと。ちょっと否定的な意見を聞いたことがあったので、そういうイメージでいたんですけど、この会に参加したときに、どの人が言っていたかはもう忘れたんですけど、移住者の人はまたどこかへ行ってしまっても風を運んで来てなんか置いていくから、それはそれでいいんだっていうことをおっしゃっていました。そういう視点もあるんだなっていうのは改めて気づかされました。初めて参加してよかったので、来年よかったら皆さん行ってください。簡単ですが以上です。 ありがとうございます。 2 日目の第 1 分科会で助言者をしていました B 委員にお話を伺います。私も 1 日目、2 日目参加させていただきました。 この大会に過去に参加された方って、この会だとどのくらいいらっやいますか。あんまりイメージ湧かないのかなと思って、結構これ規模が大きくて、1 日目の基調講演とかアトラクションの会場は、大体 1000 人ぐらい入るホールがほぼ埋まるぐらいの客入りというか、見た感じで 800 人ぐらい参加者がいて、みんなでホールの出し物を見る感じの風景でまず 1 日目があって、もう本当にテレビでしか見聞きしないような事例がポンポン出てきて、これって社会教育なのかなと思いながら、神山の話とか偶発性をデザインするっていう趣旨で、高専の実践が、実は昔の青い目の人形っていう戦前に日本とアメリカが友好関係を作るきっかけになった人形をもらう事業があったんです。 それが神山町では偶然残っていて、それをきっかけに、それをアメリカに持って帰る取り組みをその地域の人でやった、というやりとりが昔あって、その脈を受け継いで今ここにあるって説明の仕方が丸ごと高専が
---------------------	--

	できたみたいなの、バタフライエフェクトみたいなの、離れたお話をくっつけて話して、どこに偶発性を生むきっかけがあったのかみたいなお話だったんですね。だから小さなきっかけを生む社会教育も大事にしていきたいと思います趣旨だったんですけど。そうだなと思いながらも、こじつけた感じも否めず、そのあとパネルディスカッションで出てきた方々もあまり社会教育とか生涯学習という言葉を意識的に使っているということではなくて、地域づくりや人との関わりの中で、感じる喜びや繋がりに対する満足感、やりがいみたいなことを明るくお話しされていて、関係者はすごく社会教育的だなっていう感想を持つんですけど、そこに社会教育行政や自治体がどれぐらい関わったかはほとんど見えなかったです。だから、質問ありますかっていう時に、自治体とはどう関わったんですかと聞いたかったんですけど、あんまりそういう観点がない場でしたね。 分科会は4分科会あって各部屋に200名ぐらい人が集まる大規模な会でした。分科会の発表が2件、各部屋であって、各部屋のその1件あたりにつき、みんなで感想を共有する時間が30分ぐらいあり、うわーって皆さん話すから、こっちは全然その内容を感じできなかったんですけど、各中四国県内の社会教育委員とかされていたり、社会教育行政に関わっている自治体職員さんだったりその部屋にいらっしゃって、実際に関連してこういうことやっているとか、こういう事がいいみたいな議論があったと思います。私は壇上にいて、先ほど白石さんからお話があった勝浦町の人形浄瑠璃をやってらっしゃる松下さんと岡山県西栗倉村の教育委員会の方と教育に携わっている若い方とお話する関わりをしました。特に、私の関心からすると結構人形浄瑠璃の実践がすごく響くものがありましたね。地域文化はやはり継承するのは大変で、今県内に高校で部活をしている学校が2校あって、中にはその卒業生がプロみたいな立場で継続しているケースもあるけれど、本当に先細りだと。自分らもほとんどお金をもらわない中で、予算が年間10万円ぐらいの規模でこの活動をやっているというお話されていました。香川県でも東かがわ市では子ども演劇、高松市や丸亀市とかで自治会で獅子舞をやっているというお話をしたときに、伝統芸能のコミュニティがあるのは、素晴らしいと思いますって言ってくださっていました。社会教育とか文化活動で今回、まなび文化課っていう形に合併しましたが、何か見えない薄い壁みたいな膜みたいなのがずっとあって、そこをフラットにつなげていくことがむしろ今の体制に合っているんじゃないかなと。 もっと社会教育の議論をするときも、これって社会教育なのとか、何か
--	--

会長 委員	ちょっとそれっぽさがあるだけのものではあっても、話題に出していくとか、目を配るとかの射程を広げていく必要性をこの会を通して感じました。助言者らしい助言はできてなくて、私は褒めて伸ばすスタンスで、この実践のどこが素晴らしいとか、もっと頑張ってみようとか、なんかそういう趣旨の話をした、ちょっとあんまりこの場で報告することはないと思います。ちょっと全体的なところで共有できたらなと思いました。 ありがとうございました。皆さんの中で、何かご質問とかございますか。B委員の話について、香川県でも文楽をやっているんです。 1つは三豊市の三野町、そこは相当に古い歴史があるんですよ。あと小豆島か高松にも。うちのコミュニティでは敬老会にて、三野町の文楽を2回ほどやったんですよ。その時に話を聞いていて思ったのが、子どもたちに継承するところまでいっているかどうかかわからんですけど、子どもたちと一緒にやっています。 11月23日に三野町で文楽があつて、見に行ったんですけど、小学生が全部語りから人形遣いまで全部やるんですよ。それ授業で1年間やって、その成果を町民の人に見てもらおうということで、見てびっくりしたんですが、相当腕が良いというか、そういう取り組みを三豊市はやっているんですよ。語りをやっている人も、プロかなと思うぐらいレベルが高い。聞いたら本場の文楽から年に何回か指導に来てもらっているということで、伝統芸能を小学生に教えるということをやっているんです。 丸亀でもできることないかと思いつつ、とりあえず敬老会でお年寄り向けのイベントを2年ほど続けているんですが、結構好評でした。1年目は城坤小学校の体育館で、今年はコミュニティでやったんですけど割と好評で、丸亀でもできるような気がするんですけど。だからちょっと思ったのは、敬老会だけでやるというのはもったいないなと。 そういうのが社会教育になるかはわからないんですけど、こういうところで予算つけて、丸亀市の行事としてやってみてもいいかなと。三豊市は同じ香川県内ですので、地元みたいなものですからそれはもうやったらいいんじゃないかと思います。 獅子舞についてもコミュニティの夏祭りで城坤校区の方で呼びかけたら、7ヶ所来てくれて、一緒にやったんですけども盛り上がりましたね。ということで、伝統芸能をイベントだけでやるのではなく、子どもたちにどうやって感じてもらうかっていうのも大事なことで、ここできるかどうかわからんですけど市で予算つけて、市の行事としてやってもらいたいなというのはもう常々思っているんですがね。
------------------	--

課長	文楽でタイムリーなお話がありまして、豊竹若太夫さんという、豊竹座の大名跡でいわゆる日本でトップの方ですけど、この方3月20日に丸亀のお城の大手一の門で浄瑠璃を今回やることにしています。 その前に子どもたちの体験ワークショップという形で、市内の子どもたちを集めて、いわゆる語りとか浄瑠璃の面白いところを、若太夫さんに教えていただくというふうな催しをやろうとしています。こういったところから、例えば各学校へアウトリーチするとか、広く丸亀市内の子どもたちが参加できるようなイベントに絡めて何かをするっていうような工夫をやっていきます。ぜひ、こちらは2000円で80人集めようとしています。このレベルで2000円ではなかなか見られない、鑑賞することができないということです。ぜひまたご参加いただけたらと思いますし、チラシ等できましたらまたご案内を差し上げたいと思います。以上です。
委員	それはイベントとしてやるだけですか。
課長	今回はイベントとしてやります。
委員	2000円かかるんですか。
課長	はい。子どもさんは無料です。鑑賞の方は2000円かかります。
委員	徳島の勝浦町は学校の部活動としてやっているということだったんです。
委員	三豊も部活動としてやっていて、1年間続けてやっていて、結構レベル高いです。
会長	丸亀って伝承していけるような伝統芸能ってありますか。獅子舞とかは子ども会とか、自治会単位でやっていますけど。
委員	「盆踊り」とかいう、「やっこ」とか。
委員	「念仏踊り」とか。
会長	部活動としてやられているんですか。
委員	いや、部活動ではないですけど。
部長	中学生が役をやっているんで、多分それは学校に出向いていってですね。
委員	そうですね。
部長	もともと大人が出向いていって中学生の子たちに声をかけて、その子どもたちが伝統芸能の方で携わるっていうふうな、そういう流れはあるところもあります。飯山のほうですね。
会長	南の方ばかりですね。
委員	坂本なので、飯山町では北のほうですね。
委員	子ども会が関わっているんですか。

部長	いや子ども会は関わってなくて、中学生ですね。中学校に出向いていて、声をかけて、そういう伝統芸能を継承してもらいたいっていうような話だと思いますけど。
委員	学校団体で上げていくとその場がぱっと消えてなくなって、本人も辞めちゃうみたいなことがありますけど、そういうのは。
委員	学年ごとに多分、そういう希望取っていて、コロナでなくなるかなと思ったんですけど、今年もいるとは聞いていたので、コミュニティまつりとかが発表の場としてあったんですけど、今年は衆議院選でコミュニティまつりが移行してしまっって、期末試験と被って、校長も強く言えないということで発表の場をなくしてしまったっていうのが現状ですね。
委員	滝宮とは違うんですか。
委員	滝宮は滝宮でありますけど、坂本の念仏踊っていうのが飯山であるんです。
委員	令和 8 年香川県教育委員会がこれ（中国・四国地区社会教育研究大会）をやらないといけないので、今みたいな問い合わせが来るかもしれないですね。
部長	飯山南はおじょも太鼓は子どもたちが携わって継承しているものもあります。
会長	学校もかかわっているんですかね。好きな子が集まっている感じですかね。
委員	小学生がメインですかね。
委員	高松のほうでは牛乳パックとペットボトルキャップで獅子舞を作ったりとかやっていて、郷土教育が始まっているなど。
委員	神楽はしてないんですかね。
委員	神楽は垂水神社ですね。湯立神楽が有名ですね。
会長	それは子どもたちに継承されているんでしょうか。
委員	あれは、地域の方々が結構いろいろ参加してくださっているようなので、若い人も。
会長	何かイベントのアトラクションって言ったら、丸亀っていつも南中の発幸舞連ですけど、伝承している子どもたちに視点を当てて、式典のときに発表の場を作ってあげていくっていうのも、何か一つ手かなと。
委員	クラブ活動の活躍の場を作ってあげるのと似ている点もありますね。 パネリストの方と話していて、出た話題としてはお金の出所を行政とかに頼ってしまう事のいびつさみたいなのがやっぱりあって、地域の伝統芸能とかお祭りを運営するのに自治体職員が休日出勤みたいな形で手伝っているみたいな地域もなくはなくて、何かそれってお祭りの形として

会長 委員	どうなのか。国の補助金がないと続けられない伝統文化って何なのかなとおっしゃって、先ほど有料でイベントをされるってご案内ありましたけど、ちゃんと経済的な価値で評価するとか、ちゃんとお金が発生するってことも一つちゃんと価値観として持っておくべきものだなと思うので、でもそこは難しい。 やればよいという話ではなく、安売りしてはいけないなという気持ちもあって。繊細な技術だったりするのでね。 ずっとある課題だと思います。 例えば獅子舞一つとっても、演じ手と獅子を補修する職人さんとか、染め物をする人とかいたりして、運用みたいな状況を考えたときに、地域で支援することの限界や点在している人達をちゃんとつなぐっていう事も必要になるので、やることが多く、イベントの場を作るだけではないですね。
委員	獅子舞をやるには、お金がかかるんですよね。何にお金がかかるかといいますと、まずは衣装のクリーニング代、これは 30、40 点ありますからね。それと獅子頭の修理や太鼓ぶちの衣装とか、年間 1 回やったら大体 40 万円ぐらいかかるかな。祭りのときに周って、1 軒で 5000 円出してもらう。獅子舞してもらった花代として、子供が太鼓をするのはもう 1000 円。合計 6000 円出してもらうんです。それで 60 軒くらい周るんです。2 日間で 60 軒と大変なんですけど、それで何とかやっているんやけど、ちょっとまだ足らん。
委員 委員	お金をもらうんですか。 獅子舞で家をずっと周って行って、その家の方が獅子舞をしている人に花代として。
委員 委員	そこでやりくりするんですか。 それでやるんやけど足らんというんで、今津以外のところ、関係がある病院や食堂、ガソリンスタンドに行っています。 そこで稼ぐというか、それでないと村の中だけでは賄えない。それでも 5000 円 6000 円出す人は少なくなって、新しく家が建ったところのほとんどは、うちはいいですって。 だから昔からおる人だけでやるから、どうしても獅子舞を使ってもらう家が少なくなって、財政的にどうするかとなって、自治会でちょっと応援しないといかんかという話も出てきています。
委員	ちょっと無知すぎて、全然仕組み知らなかったんで、逆に言うとこれを多分知っていない方も地域にいるから、御花代がどうか、獅子舞の意味とかもしかしたら伝わってないということもあるかもしれないんです

委員	ね。 ちょっと残念だなと思うのが、他と比較してですけど、山陰地方は発達していますよ。岡山とかも。そこから香川県へイベントで来るんですけど、やっぱり力の入れ方が全然違う。ものすごく力入って自分たちが本当に好きでやっているというのが耳に入ってくるんですよ。自分のところとかじゃないけど、獅子舞は義務感でやっている感じがあるんですよ。僕たちが使ってあげるから、あなたたち金を出しなとかいう感じだね。あんまり良くない雰囲気が出てしまっているんです。本当にあなたがやりたいのかと聞きたくなるような感じになっている。それだけやり手が少なくなっている。このままほっといたら、多分廃れるなって、いかなとなったら、自治会でも支援をしないといけないかなという段階に来たんですよ。そういうお金との関係がやっぱり大事だなと思います。やっぱり好きでやっとなんやけど、どうも仕事が忙しいとか祭りの後は2日くらい有休を取らんと体がもたないとかが出てきよるんですよ。支援をしていかないと、ちょっとこのままでは獅子舞もなくなっていくかなと。私も小さいときに、獅子舞の太鼓ぶちで出た時の雰囲気がやっぱ頭に入っているんですよ。小さいけど大人と一緒に獅子舞の練習をやって、大人はお酒を飲みながらやって、子どもも大人も一緒になってふざけて、その感覚が村を自分たちの村やと思うことに繋がっているんですよ。その辺がだんだんなくなってきているから、そういう伝統芸能はただの芸能だけでなしに人の繋がり、年寄りと若い人との繋がりということを考える上でも大事だし、その村を思うというかね、村を思うというのはやっぱり、小さいときのその大人との関係の体験とかね、それがもう一番根っこにある。何をどうかいうかいうのではなく、感覚かな。あそこのおじいちゃんにいろいろお世話になったとかね、そういう感覚はそういう伝統芸能を通じて、実際受け継がれたのかなど。それは昔からおる人たちと、最近来た人たちの、そういうことに関する考え方の違い、落差がものすごいあるから、やっぱりそういう小さいときに体験するという、そういう芸能を通じてやれば、いろんな意味でプラスになるかなと思っています。なかなかそれを維持するのはちょっと難しい段階に入っているかなという。
会長	C 委員、中学校の中ではそういった文化芸能的な取り組みとかはありますか。
委員	飯山みたいに地域に根付いたものがあればありますが、地域に根づいたものがなければ取り入れるようなことはしていないですね。地域のお祭りや獅子舞とかはありますが、各自治会で運営しているので、学校で

委員	取り組んでいるということはないですね。僕も小さいときには太鼓ぶちで出ていたりしていましたが、いざ仕事を始めてしまうと、仕事が優先なり、子どものころは楽しかったけど、大人になるとそれが負担感になってきたりとか、仕事を休んでまで行かないといけないことかって。 昔は地域で農繁期のときは仕事もみんな休んで、そういう時代だったんじゃないですか。 農繁期は仕事を休んでするのが当たり前という時代で、そういうのが残されていたけど、今は農繁期だから仕事休んでっていうのは、なかなかね、農家さんは当然そうだろうけど、みんなが休むということはないですからね。時代背景とかも関係してくる。残したらいいなと思うんですけど。 この差は何かなと思うのが、豊浜の太鼓で、ものすごい。もう大人も結構皆休んでいっていますよ。もうほとんど村中上げてやっていますね。豊浜の町内だけの人口から言っても、あれだけの太鼓をあれだけの人でやるというのはものすごい、新居浜と西条でもそうやけど、だから、そういう仕事はどうとかいうこと以外に、何かやっぱやりたいというのがあるんじゃないかと思うわけやけど。これはまだちょっと見つからんのですけど。やっぱその全然違いますからね。西条とか行っても、遠いところへ就職した人も帰ってきてね、休み取ってやるぐらいなんかもう根づいたものですね。それと、丸亀の地域で廃れているという、この違いは何かなと考えてもなかなか答えが出ないですね。
委員	太鼓はあんまり練習がいらないですよ。獅子舞とかになるとやっぱ、準備期間の練習とかをしながら、準備をしていかないといけない差がありますよね。その日だけエネルギーをつぎ込むのと、長く継続していくという。
会長	D 委員さん何か一言ありますか。
委員	地元が塩屋で、子どものときには西の太鼓、東の太鼓に、大獅子とか小獅子とかね、いろんなお祭りがすごく賑やかで、学校も休みになって、すごく懐かしくて、そういった伝統は残ってほしい気はしますね。やはりそれだけ地域との結びつきも深かったんだろうなと思います。
会長	その時だけ盛りあがるのはやりやすいですよ。クリスマスだったりハロウィンだったり、入ってきたものの文化には、すぐ乗ってその時ワーッとやって終わる。でも、日本のそういったこつこつ積み上げていくというのがなかなか難しくなっているっていうのはやっぱ地域の繋がり希薄化にもなっているのかなっていうのがやっぱ大きな課題になるんじゃないかなと思いますね。大切なものはつないでいきたいですね。

委員	来季の生涯学習推進計画のテーマにこの議論が反映されていければいいかもしれないですね。
会長	そうですね。ありがとうございます。続きまして、次に移らせていただきます。その他のところで、令和 7 年丸亀市二十歳の成人式については、案内状が皆様の方にも届いているかと思えますけれども、担当からお願いします。
事務局	12 月の初めにこちらの方から皆さんにご案内状を出させていただいております。年明け 1 月 12 日日曜日です。ご都合つく方、ぜひご臨席いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。13 時 30 分からオープニングが始まりまして、13 時 50 分から式典が始まる予定です。式典自体につきましては、14 時 20 分ごろ終わる予定です。そのあと、実行委員会によるアトラクションが 15 時までの予定で 15 時から 16 時で小学校区ごとの記念写真の撮影という形になります。成人式自体につきましては、16 時ごろ写真の撮影が終わった段階で終わりというような流れになります。
会長	ご多忙のところ、恐縮でございますけれども、皆さんご臨席いただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。
事務局	はい。ありがとうございます。成人式について何かご質問、ご意見等あります。ないようですので、他に事務局より何かありますでしょうか。前回の会議録についてですけれども、先日送付させていただいておりますので、またご覧になっていただいて、何かございましたら、1 月 7 日までにまなび文化課の方までお願いいたします。また意見集まり次第、ホームページの方には公開します。よろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございます。議事録はまた読んでおいてください。
事務局	そのほか委員の皆さんから何かございますか。よろしいでしょうか。ないようですので、議事進行を事務局にお返しします。
事務局	会長ありがとうございます。次回の会議は 3 月頃を予定しています。また日程が決まり次第、ご連絡いたしますのでお願いします。
	以上で令和 6 年度第 2 回丸亀市社会教育委員の会を終了いたします。委員の皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。